

合唱音楽史 I (西洋) [通年]

講師：宮崎 靖代 (音楽学者)

◇ 木曜日 19:30~21:00 ◇ アーカイブ配信 全30回

講義概要

「合唱音楽」を広義の意味で「複数の声部を持つ音楽」あるいは「複数人で歌う音楽」ととらえ、中世から現代までの幅広い時代の合唱音楽の歴史を学びます。この講座では、①合唱音楽史の大きな流れをとらえること、②時代ごとに特徴的な曲種や様式、形式をとらえること、③それらの作品が生まれた社会的・文化的な背景を理解することによって、合唱音楽の全体像を正確に理解することを目的としています。そのうえで、それらの特徴を現わしている代表的な作品を譜例とともに聴いたり分析したりすることで、楽曲の理解をさらに深めていきたいと考えています。また必要に応じて、正しい資料へのアプローチ方法などにも触れることで、合唱団を率いていくときに必要な楽譜の選定の力も養っていただけることを目標に置いています。特に、バロック以前の音楽は記譜法が異なるうえに、現代譜の探し方もある種のコツが必要な時代であるため、その部分は少し時間をかけて説明していきます。

教科書：特に指定なし。毎回簡単なレジュメを配布し、それに沿って授業を進めます。

参考書：・M.カッロツォ、C.チマガッリ『西洋音楽の歴史』（全3巻）、川西麻理訳（シーライト・パブリッシング、2010）

・金澤正剛『ヨーロッパ音楽の歴史』（音楽之友社、2020）

・皆川達夫『合唱音楽の歴史』改訂版（全音楽譜出版社、1998）

※これ以外の参考書については、適宜、授業中に紹介する予定です。

※教科書は必ず必要なもの、参考書は必ずしも必要ではないもの。

カリキュラム

授業回	授業内容
第1回	導入：合唱音楽とは何か：合唱音楽の始まり
第2回	キリスト教会の成立とグレゴリオ聖歌：単旋律の響きを味わう
第3回	初期多声音楽（オルガヌム）の響き：協和音・不協和音とは何か
第4回	14世紀アルス・ノヴァとトレチェントの多声音楽
第5回	ルネサンスの始まりとフランドル楽派：イギリスから大陸へ、新しい響きの誕生と宗教曲の魅力
第6回	15世紀イタリアおよびイギリスの多声曲：マドリガーレとマドリガル
第7回	15世紀フランスの多声曲：シャンソンとミュージック・ムジユレ
第8回	宗教改革：ルター派とカルヴァン派そして英国国教会・3つの改革に見られる合唱音楽
第9回	対抗宗教改革：イタリアにおける宗教音楽対抗宗教改革・イタリアにおける宗教音楽
第10回	イタリア・バロック音楽①：分割合唱からコンチェルタート様式へ
第11回	イタリア・バロック音楽②：カンタータとオラトリオ
第12回	フランス・バロック音楽：ルイ14世の宮廷音楽家たちを中心に
第13回	ドイツ・バロック音楽：プロテスタント教会のカンタータ、受難曲
第14回	18世紀前半：J.S.バッハとG.F.ヘンデルの作品を中心に
第15回	18世紀後半、バロックから古典派へ：C.P.E. バッハ、ペルゴレージを中心に
第16回	古典派の宗教曲：ハイドンとモーツァルト、ベートーヴェンのミサ曲とオラトリオ
第17回	古典派からロマン派へ：シューベルト、シューベルトティアードとパート・ソング
第18回	オペラの中の合唱曲①：ドイツ・オペラとフランス・オペラ
第19回	オペラの中の合唱曲②：ロッシニ、ヴェルディを中心に
第20回	ドイツ・ロマン派①：19世紀中ごろの重唱・合唱曲（メンデルスゾーン、シューマンを中心に）
第21回	ドイツ・ロマン派②：ブラームスの重唱・合唱曲
第22回	ロマン派の宗教曲：ミサ曲、オラトリオ、レクイエム
第23回	合唱付き管弦楽曲：ベルリオーズ、リスト、マーラー
第24回	フランス近代の合唱音楽①：フランス国民音楽協会
第25回	フランス近代の合唱音楽②：印象派とフランス六人組
第26回	国民楽派①東欧：バルトークとコダーイを中心に
第27回	国民楽派②ロシア：チャイコフスキーとラフマニノフを中心に
第28回	20世紀以降の合唱音楽①：西ヨーロッパ、12音技法と多様な声
第29回	20世紀以降の合唱音楽②：北欧、バルト三国、アメリカなど
第30回	まとめ：合唱音楽の未来へ